

～ 「高・清フレンドリー古道」 ～

お わ り に

私は本書の著作・文責を担っているが、たまたま記録係となったことからの経緯であり、以下は編集後記として記述します。

私（大沼）が「高清水通り」に係ったのは2022(令和4)年6月26日（日）でした、この発端は、出羽三山古修験道秋の峰参勤二十度位達成の天童市在住矢野光夫さん声掛けの六十里越街道トレッキングに何回か参加している中で、西川町本道寺の布施範行さんと知り合い、ある時“月山に至る高清水通りは登れるよ”という話を伺い——実は国土地理院地形図に登山道があることは溺れ気に知ってはいたが——“それならば、よし登って見よう”ということから始まったのです。当初はこんなにも奥深く入り込む予定はなかったが、本通り五大に宿る神秘と不思議な魅力に取り付かれ惹き込まれてしまいました。従来、地元において本通りに丁石が点在していることは分かっていた、しかし、そのままにしていた、それ以上のことは何も分からなかった、そこで止まっていた、それ以上の動きはなかったのであります。

しかしその後日、7月24日（日）に宮林良幸さんを紹介されて、3人が初会合を持ったのであります。「高清水通り調査隊」と通称したT-FMO渦巻活動による地勢・史蹟等調査活動を通じて、成果を世に明からしめたのであります。特徴を簡潔に記述すれば次のとおりです。

- <sup>1</sup>口之宮湯殿山神社境内東北端にある「文政五年建立丁石起点記念碑」の碑文刻字を解読した。
- <sup>2</sup>姥像等石碑群にありながらも不明であった石像の碑文刻字解読により「祖母神像」と判明せしめた、<sup>まこと</sup>実しやかに流布していた「<sup>けんえおう</sup>懸衣翁」の見立ては誤解であったのだ。
- <sup>3</sup>「石船」にある石造物「水受け（石船）」の碑文刻字を解読し、奉納品（奉献品）であること、および船首は湯殿山向き、船尾は寄進者居住地の山形市であることを突き止めた。
- <sup>4</sup>「柴燈場」（古語は<sup>さいと</sup>柴明場）は烏川不動滝と湯殿山遥拝等の祭祀場であることを判明せしめた。
- <sup>5</sup>最終の「九十六丁（石）」と墓石2体を土中から掘り起し、人工的に削平された「高清水小屋」跡であることを判明せしめた。
- <sup>6</sup>月山目前標高約1,733mの山上に石造堰堤「<sup>しゃつきょう</sup>天空石橋」の存在を判明せしめた。

それらの成果について、2023(令和5)年3月12日（日）、西川町交流センター「あいべ」において、公表・公開のための報告発表を行いました。

そうこうしている中、「高清水通り」は一区切り付いたことから、引き続き、隣接し、これもまた出羽三山登拝参詣古道の一つ、西川町岩根沢「岩根沢三山神社（旧長耀山日月寺）」を基点とする「清川道」に関心を抱いた処で片倉忠幸さんと知り合いになり、T-FMOに合わせ「T・K-Friends」活動と称し、地勢・史蹟等調査活動を再起動しました。

- <sup>A</sup>清川行人小屋前にある墓石を発掘し碑文刻字を解読した。姥像（奪衣婆）とおぼしきは誤解であり「弘法大師像」であることを判明せしめた。
- <sup>B</sup>同小屋少し先の小高い丘（見晴台）は、同小屋前石碑の碑文刻字解読により「清川 御所王子社」（五所皇子稻荷神社とも）であることを判明せしめた。
- <sup>C</sup>同小屋から<sup>よこどう</sup>横道を目指し、手盡坂を登り切った場所に「来名戸神」（半分土中の地藏菩薩像と全土中の墓石3体／みなに女性戒名刻字）の存在を判明せしめ碑文刻字を解読した。
- <sup>D</sup>さらにその少し先に「月山・湯殿山 追分碑」の存在を判明せしめ碑文刻字を解読した。

それらの成果について、2024(令和6)年1月28日（日）、西川町交流センター「あいべ」において、公表・公開のための報告発表を行いました。

そのような成果をあげることが出来たのは、仲間の赤心を以って献身的な協力にあります、しかも、世の一般常識、既成概念とは違う“少し変わった地域興しのかたち”があったのです、その特徴、共創の肝は次のとおりです。

- <sup>ア</sup>地域行政（町内会等）から正式認知されたグループではない。
- <sup>イ</sup>規約等の内部ルールを定めない。
- <sup>ウ</sup>責任者（リーダー・代表者）をあえて決めない。
- <sup>エ</sup>役割分担や担当を決めない。
- <sup>オ</sup>やるべきことは自発した、自らの判断で自らが意気を感じて動いた。
- <sup>カ</sup>各自が持つ「得意・得手・技」（個性）発揮を丸ごと相互尊重した。
- <sup>キ</sup>始終、総てにわたって提案型姿勢（心のブレインストーミング）に徹した。
- <sup>ク</sup>無心、無我夢中（利害損得の勘定・感情は微塵も有らず）になった。

だからこそ上手く運んだのです、やるべき業務・作業は各自みな認識した、その上で、自らの判断で自らが意気を感じて、課題解決に動いた、主客の相互転換自由展開となったのです、始終、自主・自発の心の赴くままのうごめきだったのです。深層精神（性格）に宿る寛大三美言<sup>（後記）</sup>の持ち主が集まって、枠に嵌めなかった、枠に嵌まらなかったからこそその躍動でありました。もしも、既存・従来型の組織運営モデル、いわゆる、『長』を冠するトップと役割分担を決める「ピラミッド構造型指揮命令系統<sup>（※1）</sup>」であれば、かえって上手く成らなかった、成功しなかったと思っています。ボランティア活動においては、毀誉褒貶（評判）を気にする中途半端な人物がリーダーに就くと、立場を利用し持論を押し付けるようになるから百害あって一利なしとなるものです。「T・K-Friends」は素人故の生半可を自覚していることからリーダー的存在はむしろ必要としなかったのであります。（※1）行政や法人においては、権能上意下達式の組織統制上は、トップ（リーダー）は必要であります。

その仲間達を下表の意味合いを込めて「T・K-Friends」（西川町観光開発月山サポーター）と通称しています。

T	高清水通り (Takashimizu Touri)	Triangle <small>テイー エフモ</small> ( T - FMO / 布施範行・宮林良幸・大沼香)
K	清川道 (Kiyokawado)	<small>ク ク ク ク</small> 清川行人小屋管理人 (片倉忠幸)
本活動に係ったメンバーの心意気を踏まえ 高い(Takai)志と、清い(Kiyoi)心を持った仲間達		

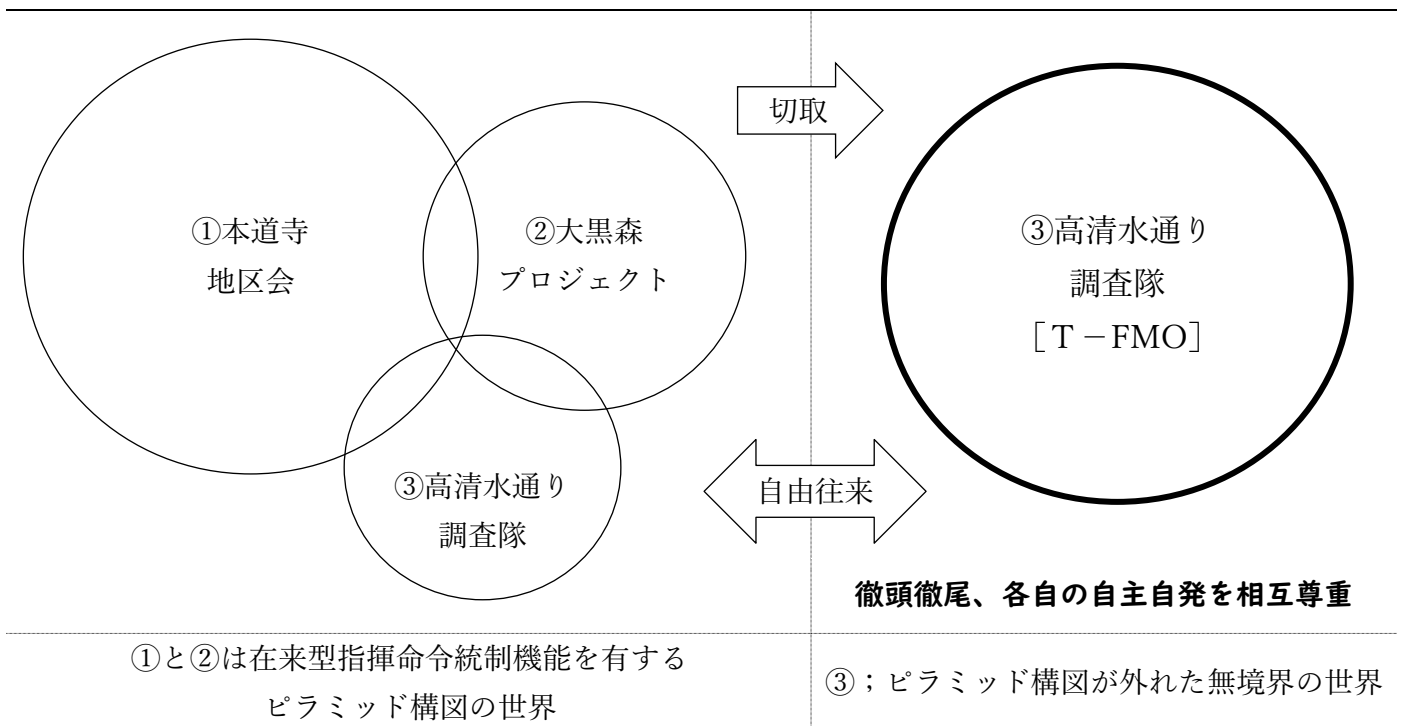
グループの調査活動対応エリアは下表のとおりであります。

T-FMOの対応エリア	「高清水通り」とその道沿い
T・K-Friendsの対応エリア	「清川道」を主体としつつ上記以外の道沿いと、共通帯域

それらの意図を踏まえた「T-FMO」ならびに「T・K-Friendsの」の位置付けと関連の概念図化は次頁のとおりです。切磋琢磨、相関向上、対等互啓（恵）の自然発生です、格別に強調する姿勢での掛け声は不要です、個性のトルネード様相です。

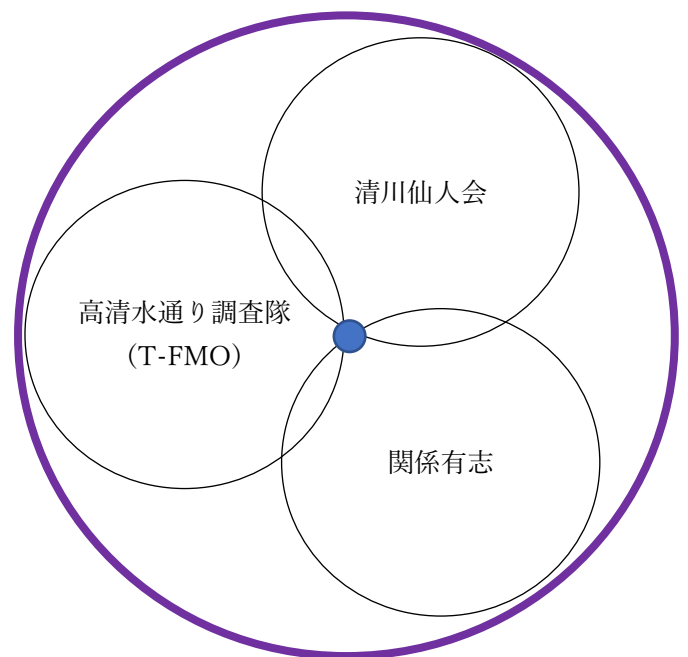
このようなチーム活動の全貌を踏まえた記録が本書、調査報告書（またはダイジェスト版）であります。報告書本体においてはT-FMO独自の意義付けを以って解説しており、その根拠・背景は布施範行さんが精査・収集した西川町史等の資料（史料）を踏まえて肉付けを図ったものであります。

T-FMOの位置付け



さて、「人間は万物の霊長」と称されるがごとし、知識の積み重ねで文明が発展して来ましたが、とかく人相応に既得権益が蔓延って、価値観の独善化が鋭角になって、対立の果てに様々な社会問題を起こしています。そういう社会に揉まれながら高齢化が一層助長される地域コミュニティにあって、生きがい醸成のための生涯学習が叫ばれています。そこで思い出すのが、松尾芭蕉の「不易流行」や論語の「温故知新」という言葉であります。常に、自らの固定概念をぶち壊し、自らに新しい息吹を吹き込む意識が必要だとつくづく感じています。よく「地域の伝統」と言われるが、心が老朽化した年配者や若<sup>じゃっきゅう</sup>朽化した壮年者の既得権益の隠れ蓑として使う、独善を正当化するために使う、他の前進的な提案を潰すために使うことが多々ありますから「伝統」という言葉は要注意なのです、その裏側の発言真意を注意深く観察する必要があります。伝統や慣習、価値観の継承という点に留意しつつも、時代の変化と多様性を進取し、新しい価値創造の当事者なるべく柔軟な姿勢がとても大事であると思っています。

[T・K-Friendsの位置付け]



ピラミッド構図が外れた無境界の世界

したがって、本調査報告書の内容は、販売されている学識者の書籍本の既存言説や既成概念とは相いれない記述が多面に渡っていると思います、私見が多分に多く絶対性を主張する気はまったくなく、問題提起の意図もあります。不断の「scrap and build」、そんな考え方をもちつつ本活動に取り組んで来たつもりであります。

本活動に係り細やかながらある自負（矜持）があります。それは、本活動の結果（諸データ）を書面化した上で、共有化・一般公表を図ったことにあります。一個人の、一グループのものとして秘匿することなく、占有化・独占化することなく、紙媒体のみならずSNS・インターネット上に広く公開していることにあります。金儲けのための販売書籍本は想定していません。なぜならば、出羽三山とりわけ本件エリアは一部の人のものではありません。本件エリアの歴史性は先人が営々と積み上げて来た精華なのです。古文書だけを弄繰り回すのであれば金儲けも有りでしょう。しかし、私達の活動主体（真髓）はそういうものではなく、徹底した三現主義、とことん現場史蹟の掘起こしに注力し、それを踏まえ肉付けを図った成果であります、先人の精華を世に知らしめることが私達の務めだと思いやって来たのです。このように至ったのは何といても「T・K-Friends」仲間の純情な人間性です。

ところで、私は常々感銘を受けていることですが、山形県西川町菅野大志町長が職員や町民に対して発せられている言葉の「**④私の仕事じゃないと言わない（それも私の仕事だ）**、**⑤利他**、**⑥先回り**」であります、これを私は勝手に「寛大（菅大）<sup>贊</sup>三美言」と称しています。また、よく飛び交う「ごちゃ混ぜ」、「**①よそ者・②バカ者・③若者**」（老壯青、うつけ者・たわけ者・奇人変人）のキーワードも大好きな語彙であります。こういう心に触発されて、諸調査活動に意義を感じ楽しくやってきました。

「T-FMO」ならびに「T・K-Friends」の仲間は「寛大（菅大）<sup>贊</sup>三美言」の持ち主であり、「**①よそ者・②バカ者・③若者**」の一人三役、いわば「化け物」に化成した者の「ごちゃ混ぜ」仲間であり、だからこそ、信頼できる華嚴の世界<sup>(※2)</sup>が生まれたのです。進歩発展三本の矢、すなわち、「進化・深化・新化」がトルネード風に放たれた時空、みんなみんなまとめてその心はまさしく「ごちゃ混ぜ<sup>Crossing</sup>・ワールド」の時空だったのであります。

（※2）人間を含めたこの世のあらゆる「もの・こと」は単独では存在し得ず、お互いが原因となり結果となり、主客の立場が入替わり、連鎖の網で結ばれた存在である、無限の個別集合

体、相互関連性・相依相関ネットワーク（縁起<sup>そうえ</sup>／つながりの連鎖）の賜物だ、あるいは簡潔に「もの・こと」は縁起の結実であると説く。したがって、優劣（大小、強弱・・・）という境界のない世界観、肩書や序列の意味を為さない世界観を指す。

私にはある考え方があります。この今の一瞬が過ぎれば過去です。森羅万象、全ての「もの・こと」についての過去を100%完全復元することは出来ません。いかほどの文字を書いても、どんな図柄を描いても、地球上60億人（80億人中の大人）の知恵を持って来ても過去の真実を100%完全復元することは出来ません。したがって、様々な見方が出るのは当然のことです。あえて言うのであれば、今語る、過去の真偽のほどは五分五分だと思います。よって、過去の「もの・こと」の真偽の断定評価は何人にもできないというのが普通の感覚だと思っています。よって、他人の意見・見方に対して、賛否のあるのは当然だとしても、否定することは絶対にできないと思っています。

そんなことから、みなさんの向上心・好奇心を刺激したく、あえて突拍子もないことを平然と述べ、ここにも書いております。“おまえの言うこと、ほんまかいな”と指摘されることを本望とします。“ならば現地に行って、おれが確かめる！自身の肉眼と肌感覚で確かめる！”とおっしゃられることを、そして、挑戦・実践されることを希望いたします。（机上論終始では主観と独善が衝突し楽しくありません。）月山はみんなのもので、本エリアについて一部の人の論説で、従来通説で規定化されては困ります。本エリアの潜在価値は膨大・無限大であります。現地に分け入ったみんなが主人公です、100人100様の切り口で物語を創ろうではありませんか。従前の日陰に注目の陽を当てた思い、西川町に新しい観光資源の提供に至らしめた思いであります。

もう一度、「高・清フレンドリー古道」域の魅力についてです。本域は文武両面の特別な訴求価値があります、「文」（ソフト面）すなわち歴史的価値（精神性文化の面）においては何といても、旧本道寺で繁栄した口之宮湯殿山神社と、旧日月寺で繁栄した岩根沢三山神社が存置し、かつ、そこを基点とする『高・清フレンドリー古道』域登山道沿いには、里から百名山月山山頂まで史跡（石造文化財）が点在・連坦していることに大きな特徴を見出せます。「武」（ハード面）すなわち登山行動においては、その基点（里）から山頂までは約15km（約7時間前後）の長丁場の中、それら史跡を見分しながらじっくり取り組むフィールドなのです。大沼の15年間に亘る全国各地の歴史古道スルーハイク、および、四国徒歩へんろ4巡を通して、巡礼古道をつぶさに巡察して来たが、本域の持つ文武両面のほどよく絡み合った風土は他に類を見ない魅力を醸し出します。この良質な特異性を広く共有したく念じています。

ところで、今、全部まとめて「日陰の向日葵」のイメージ（言葉）が浮かびました。一見矛盾するようですが、そうではありません。向日葵の成長期のことに触れます、日の出前は東を向いてスタンバイし、太陽が上り始めるとその光の方向に合わせて東から西へ向きを変えます。そして、夜間には、戻るように西から東の方へ向きを変え、日の出を待ちます。このような動きをするのは、伸長成長をしている時期であって、花を咲かせると、東に向きを固定しほとんど動かなくなるとされています。

戻って、本件対象域の地理上は東南に面し、西北面に比較し、当たる太陽の日光量は1.5倍から2倍程度に多いとされています、しかしながら、注目度は極めて薄い日陰の存在でありました。しかし、るる記述して来たとおりの成果は、本来の東南面潜在性（向日葵）と太陽のマッチング（同期化）を図ったに等しいというイメージを持つに至っています。私達の努力如何ではあるが、注目度・認知度が徐々に高まっていくものと信じております、まさに成長期の初期段階であります。

最後に、本件、地勢・史蹟等の調査活動を担った仲間は手弁当無償奉仕であります。効率的な調査活動に当たれたのは、この仲間においては車の融通や送迎があったからこそであります。また、怪我やトラブルもなく楽しい調査活動を担うことが出来ました。最後に、本件調査、および、このような集約や報告に対し、陰に陽に係られた大黒森プロジェクト、清川仙人会、関係有志・仲間達、本道寺地区会、西川町役場のみんなに心より多大なる感謝を申し上げます。

大沼は下表内グーグルサイトに簡易HPを開設し、調査報告書を掲載し随時更新しているので、ご覧下さり、知人・友人に拡散賜れば有り難く存じます。このような成果の公表・公開の意図は、月山とりわけ東南域（西川口）に出現せしめた新たな魅力に触れて欲しいという切なる願いからであります。口コミやSNSの拡散を通して多くの方々に知って貰い、自ら現地に足を運んで貰い、ご自分の肉眼で直視して貰いたいと希望しています。 みんな、みんなに感謝しています。ありがとうございます。

情報発信（公開・共有化・周知）コンテンツ			
	高清水通り	高・清フレンドリー古道 （“清川道”主体）	
活動者主体	T-FMO	T・K-Friends	
報告会（発表）	2023(令和5)年3月12日(日) 於西川町交流センター「あいべ」	2024(令和6)年1月28日(日) 於西川町交流センター「あいべ」	
調査報告書	(ダイジェスト版)	(ダイジェスト版)	
西川町HPトップ 『西川町デジタルマップ』	3部構成で掲載 2023(R5)/9/26(火);初回掲載 2024(R6)/2/6(火);更新	2024(R6)/2/6(火);初回掲載	
インターネット	「YBCニュース 石橋」 で検索（放送済）		
SNS で調査報告書を随時更新（拡散OK！）	大沼開設の ホームページに掲載	QRコード 	URL：「 <a href="https://sites.google.com/view/ohnuma-kaoru/">https://sites.google.com/view/ohnuma-kaoru/</a> 」 （URL検索窓にdreamyok.com でもok）  カメラを当てると 「dreamyok.com」 と表示される
	大沼開設の Facebookに投稿	QRコード 	・Facebookアカウントの設定が必要 ・プロフィール写真は 白衣着用姿 
		検索窓に「@大沼香」	

(完)

2025（令和7）年1月末日

T - FMO

&

T・K - Friends

(西川町観光開発月山サポーター)



大沼 香； [著述文責]

(山形市内在住 / TEL 080-3338-3738)

**【出典根拠（本書）を明記すれば、いかなる部分も使用（コピー）可  
ただし、個人の金儲け（販売書籍等）に資するものはNG】**

- ・唐突な言い回しや仮想的な事柄に気付くだろうが、それらの理由・背景については、別の調査報告書本体に記述する。
- ・図表の一つひとつの細部説明は省略することからは、おかしな処に気付いた場合や、その解釈は、賢明・頭脳明晰なる読み手の想像にお任せする。見解の異なる処は、読み手のご見識を以ってご自身のさらなる向上に当てて欲しい
- ・本書は専門的学問的研究の書ではなく、あくまでも、現地に幾度となく足を運び、現物と幾度となく対面した上での素人の考察である。